

～市民と行政が同じ方向に進む～

「対話と行動の行政」の実現



▲議場で所信表明を述べる守本市長

3月3日に招集され第71回市議会定例会において、守本市長が所信表明と当面の取組みについて述べました。その概要をお知らせします。なお、所信表明の全文と予算の詳細は市ホームページからご覧いただけます。(予算と主要事業の記事は6～9頁)

（所信表明概要）

今回、多くの市民の皆様方のご支援をいただき、市長に就任することとなりました。その重責をひしひしと感じるとともに、今後、4年間の市政執行に、未来へのビジョンと責任をもって当たってまいります。

私が市政に臨む基本的な考え方は「生きたい・行きたい・活きたい・南あわじに！」であります。住民にとって住みやすく生きがい溢れたまち、市外の方々にとっても、観光、移住などの面で更に魅力ある、訪れてみたい、行っ

所信表明

てみたい、住んでみたいまち、すべての人が活いきと社会貢献を通じた生きがいをもち続け、周囲から認められる、そんな南あわじ市にしたいとの強い想いを持っています。

そのためには、市民と行政が同じ方向を向き共に進んでいくことが必要であります。その方向性を5つの行動として提案します。

一つ目は、超高齢化社会の克服です。

その正道は、多くの市民の方々が、長く社会を支える側に立ち続け、生きがいをもって活躍いただくことです。その生きがいを通じて、精神的にも肉体的にも健康であり続ける、すなわち、健康寿命の延伸を実現していきたいと思えます。

二つ目は、子育て環境の向上と教育の充実です。

本市では、3歳児以上の保育料無料化をはじめとする、子育て支援への思い切った施策展開を図るとともに、市内小中学校における耐震化、空調設備や情報機器の整備など教育環境の充実にも県下に先駆けて取り組んでまいりました。今後ともこれら施策を継続・充実し、若い世代が本市で子どもを産み育てたいと思ってくれる魅力ある子育て・教育環境づくりを進めます。

三つ目は、地域の資源を活かした地元産業の活性化です。

本市には、農・畜・水産業など二次産業が勢ぞろいしており、食糧が豊富であることは言うまでもありません。私自身、ふるさと南あわじ市を離れ、東京でも長い年月を過ごしましたが、外から見ると淡路島は一つです。このイメージを三市連携によるチーム淡路島として磨き上げていくことで、ブランドを確立していきたいと考えています。

四つ目は、大型台風やゲリラ豪雨などの自然災害、南海トラフ巨大地震やこれに起因する津波対策などへの備えをはじめとする、安心・安全のまちづくりです。

阪神淡路大震災や東日本大震災での教訓を活かし、人命最優先の防災対策とともに、強靱なまちづくりを進め、将来にわたる安心・安全を確保することとは、現市政を預かるものとしての責務であると考えています。

五つ目としては、対話と行動の市政の実現です。

行政は、住民の発意や行動をサポートする立場であるとの考え方に立ち、市民との連携を深めてまいります。市の職員が市民の皆様と顔と顔でつながり、対話を基に地域の課題や意志を正確に把握し、最善な対処方法を見つけて出し、透明性・公正性を確保しつつ執行に当たる。そのような市役所像を追求していきたいと考えています。

馬部副市長・浅井教育長の紹介

南あわじ市議会の同意を得て、3月3日付けで、前福祉部長の馬部総一郎氏が副市長

に、元淡路三原高校校長の浅井伸行氏が教育長に就任しました。



副市長
馬部 総一郎(60歳・松帆)
任期 平成29年3月3日～平成33年3月2日



教育長
浅井 伸行(61歳・松帆)
任期 平成29年3月3日～平成30年3月31日

▼馬部副市長の経歴

昭和55年に旧西淡町役場に入庁し、総務課長などを歴任。市発足後は、財政課長や総務課長、保険課長、会計管理者などに就き、福祉部長を最後に3月2日付で退職しました。

▼浅井教育長の経歴

昭和53年に兵庫県立高校の教諭となり、三原高校や洲本高校などで勤務。淡路文化会館長などを歴任し、舞子高校と淡路三原高校の校長を務めた後、今年2月末まで神戸松蔭女子学院大学の参事を務めました。

南淡ライオンズクラブが避難兼用おでかけぐるま寄贈



▲南淡ライオンズクラブから寄贈された避難兼用おでかけぐるま

南淡ライオンズクラブが結成50周年を記念した奉仕活動として、阿万保育所へ「避難兼用おでかけぐるま」リヤカー1台を寄贈。2月28日に同保育所で寄贈式が行われました。

リヤカーは、園児約10人乗りの電動アシスト付。南海トラフ大地震による津波襲来が予想されている阿万地区の避難場所が同保育所から徒歩20分の高台にあり、素早く園児らを避難させるために利用す



▲リヤカーに乗って楽しむ園児

るほか、普段は未満児用の「お散歩カー」として多目的に活用します。寄贈式では、園児らが同クラブ役員にお礼の言葉を述べたほか、歌とだんじり唄を披露しました。

第3次行革大綱策定に向けて答申



▲答申書を守本市長に手渡した原委員長(左)と清川副委員長(中央)

行財政改革審議会(原孝委員長)が3月8日、第3次南

あわじ市行財政改革大綱策定にかかる答申書を守本市長に手渡しました。市民委員10人からなる同審議会は昨年5月に大綱策定について諮問を受け、計5回の審議会で慎重な調査と審議を重ねて、このたび答申書がまとめられました。原委員長は「効率的で効果的な行財政の運営と行政と民間の役割分担を見直し、協働によるまちづくりを目標に、行政と民間が手を携えながら行財政改革を推進してほしい」と答申しました。

県広報コンクールで佳作受賞



第64回兵庫県広報コンクール写真部門(組み写真の部)で、昨年9月1日発行の広報南あわじが佳作を受賞しました。受賞した紙面は、南あわじ市が誇る2大花火大会の組み写真。イベント参加者の豊かな表情と夜空を彩った花火の写真で構成しています。今後市民の皆さまに親しまれる広報紙作りに心掛けますので、取材へのご協力をよろしくお願ひします。

▲写真部門(組み写真)で佳作を受賞した広報南あわじ9月号